



令和8年度 果樹情報 第10号

(令和8年8月5日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (7月後半、果樹研究所)

平均気温は、第4半旬が27.5℃で平年より2.9℃高く、第5半旬が26.5℃で平年より1.6℃高く、第6半旬が23.2℃で平年より2.7℃低く経過しました。

この期間の降水量は188.0 mmで平年比266%と平年よりかなり多くなりました。日照時間は88.5時間で平年比90%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (8月2日現在、果樹研究所)

8月2日時点の土壌水分 (pF 値: 果樹研究所なしほ場: 草生・無かん水) は、深さ20cmで1.9、深さ40cmで1.6、深さ60cmで1.5となっており、深さ40cm、60cmでは過湿状態です (図1)。

(深さ20cmは4月25～5月7日、5月16～19日までデータ欠損)

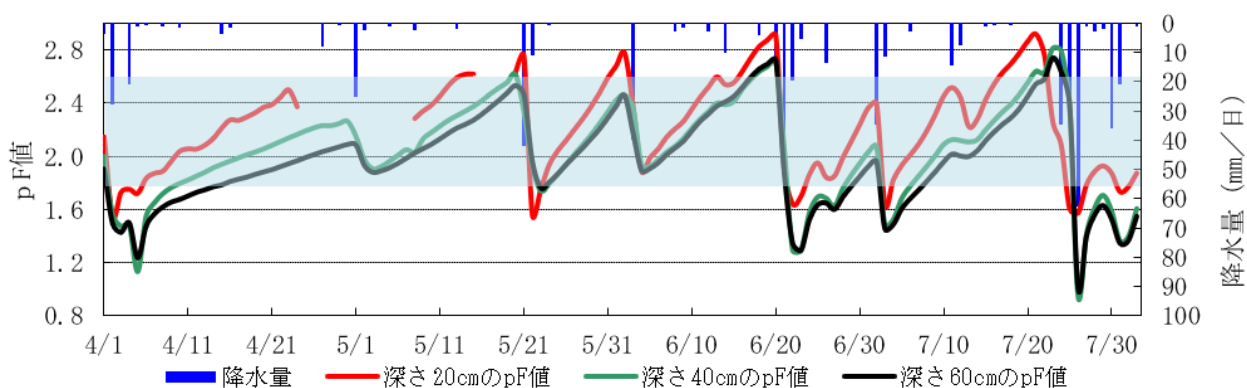


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (8月3日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が68.0 mm (平年比113%)、側径が70.3 mm (平年比118%)と平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、平年よりやや大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後110日における「ゆうぞら」の新梢長は19.2 cm (平年比117%)と平年より長く、展葉数は18.0枚 (平年比115%)と平年より多くなりました。葉色は平年並、新梢停止率は97.5%で平年並でした (表1)。

ウ 収穫状況

「暁星」の収穫開始は7月9日で平年より10日早く、収穫盛期は7月13日で、平年より10日早くなりました。果実の大きさは260gで平年より大きく、糖度は14.5° Brixで平年より高くなりました。

「ふくあかり」の収穫開始は7月13日で平年より7日早く、収穫盛期は7月19日で平年より6日早くなりました。果実の大きさは367gで平年よりかなり大きく、糖度は14.9° Brixで平年より高くなりました。

「あかつき」の収穫開始は7月21日で平年より8日早く、「まどか」の収穫開始は7月28日で平年より10日早くなりました (表2)。

表1 ももの新梢伸長（満開後110日）

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
ゆうぞら	19.2	16.4	117	18.0	15.7	115	45.3	46.1	98	97.5	93.6	104

注) 平年は、1996～2025年の平均値

表2 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/26	7/ 5	6/30	7/ 1	7/ 8	7/ 4	7/ 6	7/11	7/ 7	301	273	316	11.7	11.8	13.0
日川白鳳	7/ 2	7/10	7/ 3	7/ 4	7/13	7/ 6	7/ 9	7/17	7/10	288	237	251	12.2	11.3	13.3
暁 星	7/ 9	7/19	7/15	7/13	7/23	7/18	7/16	7/27	7/24	260	222	198	14.5	13.0	14.2
ふくあかり	7/13	7/20	7/18	7/19	7/25	7/24	7/22	7/29	7/28	367	274	302	14.9	13.0	15.8
あかつき	7/21	7/29	7/25	未	8/ 1	7/29	未	8/ 7	8/ 4	未	284	341	未	13.1	14.3
まどか	7/28	8/ 7	8/ 4	未	8/11	8/ 7	未	8/15	8/11	未	354	323	未	14.0	16.9

注) 平年値は、1996～2025年（「はつひめ」「ふくあかり」は2010年～2025年）の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が62.5 mm（平年比107%）、横径が78.7 mm（平年比110%）、「豊水」は縦径が63.3 mm（平年比108%）、横径が72.6 mm（平年比110%）といずれの品種も平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」は平年よりやや小さく、「豊水」は平年並です。

イ 裂果発生状況

7月21日（満開後97日）時点の「幸水」の裂果発生率は3.8%（平年2.6%（1996～2025年の平均値））で平年よりやや多い状況です。

ウ 成熟状況

満開後105日ごろにおける「幸水」の成熟状況は、果実硬度が8.1ポンドで平年よりやや低く、糖度が9.7° Brixで平年より低く、果皮中クロロフィル含量が14.3 $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ で平年より高くなっています（図2、3、4、表4）。

果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年値を下回っています（図5）。

オ 生育予測

8月3日現在のDVRモデルによる「幸水」の生育予測では、収穫盛期は8月21日ごろで平年より6日早い見込みです。

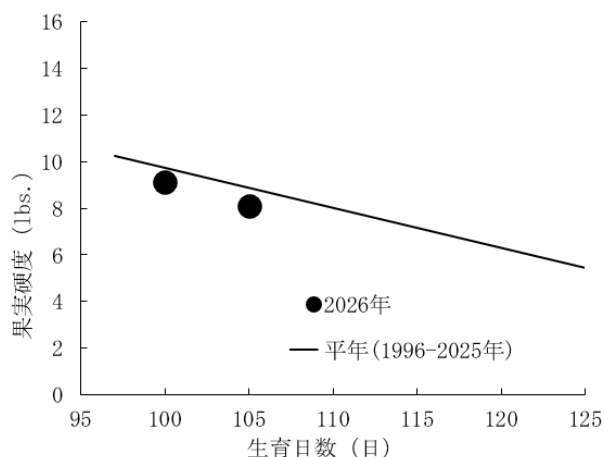


図2 「幸水」の果実硬度の推移

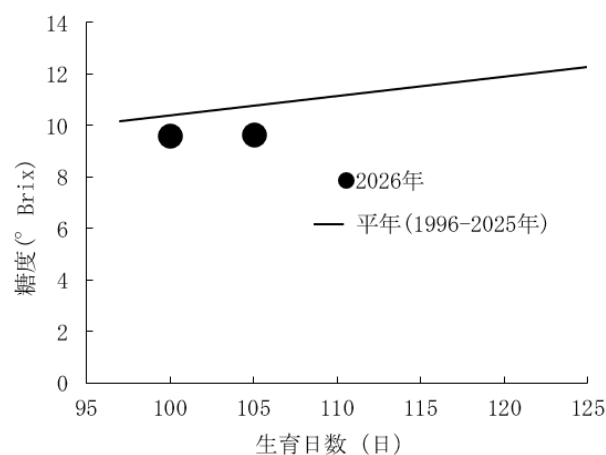


図3 「幸水」の糖度の推移

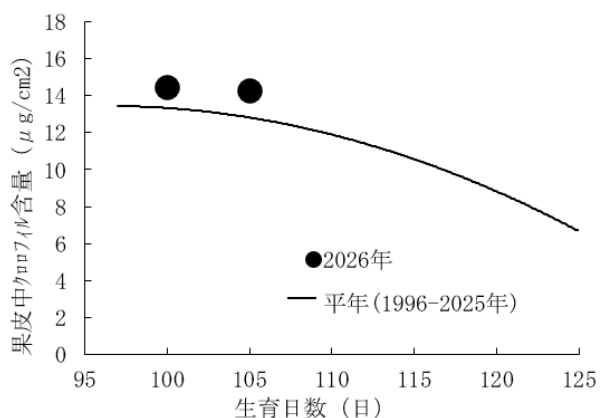


図4 「幸水」の果皮中クロロフィル含量の推移

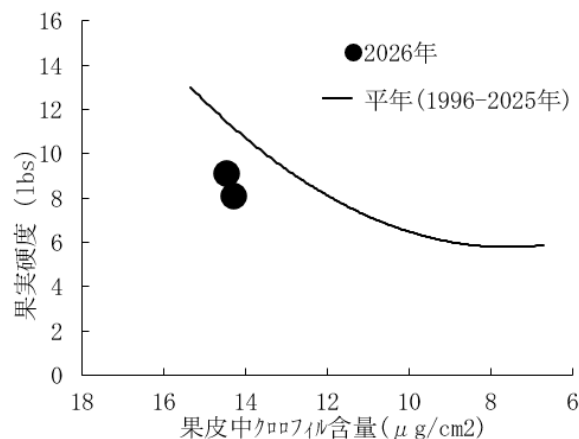


図5 「幸水」の果皮中クロロフィル含量と硬度の推移

表4 なし「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度 (lbs.)			地色			糖度(° Brix)			果皮中クロロフィル含量 (μg/cm²)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
105	8.1	8.7	12.1	1.3	1.5	1.5	9.7	10.8	11.1	14.3	12.8	13.7

注) 平年値は、1996～2025 年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 75.9 mm (平年比 110%)、横径が 82.5 mm (平年比 105%) と平年より大きく、「ふじ」は縦径が 66.6 mm (平年比 108%)、横径が 72.0 mm (平年比 106%) と平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並です。

イ 成熟状況

満開後 101 日 (7 月 30 日) における「つがる」の成熟状況は、硬度が 13.4 ポンド、デンプン指数は 1.5、糖度は 9.6° Brix、リンゴ酸は 0.32g/100ml となっています (図 6～9)。

満開後日数での比較では、果皮中アントシアニン含量が平年より低く、果皮中クロロフィル含量は平年よりやや低く推移しています (図 10、11)。

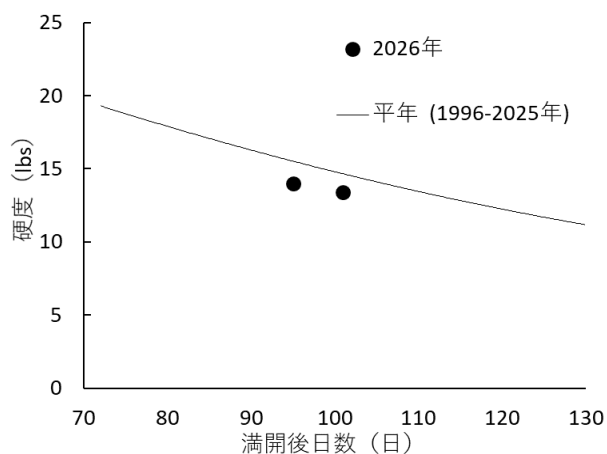


図6 「つがる」の果実硬度の推移

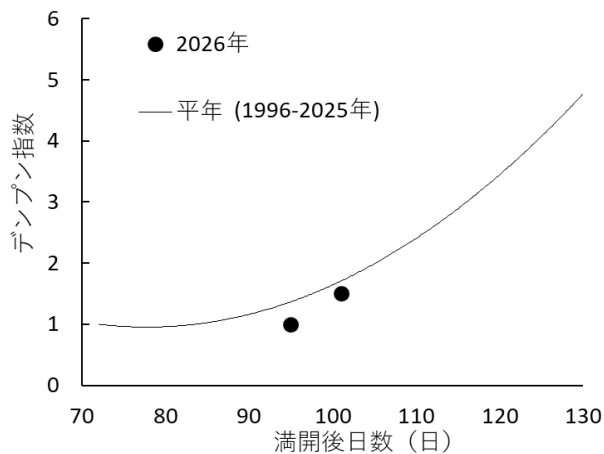


図7 「つがる」のデンプン指数の推移

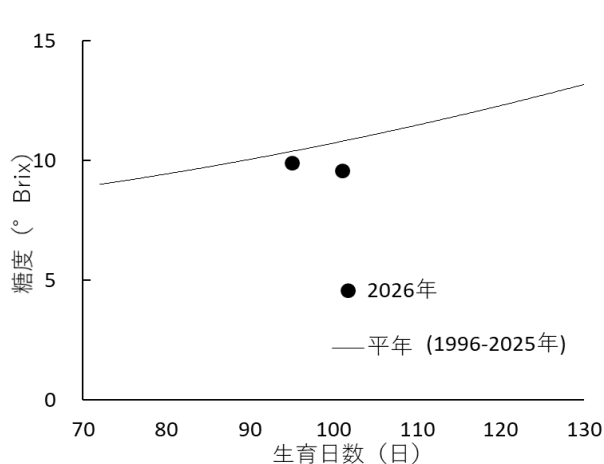


図8 「つがる」の果実糖度の推移

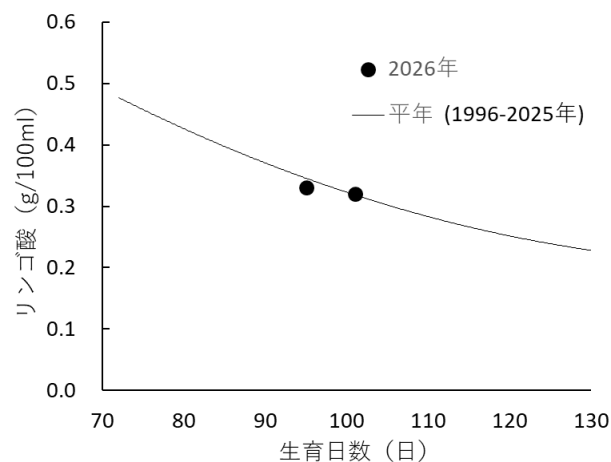


図9 「つがる」のリンゴ酸の推移

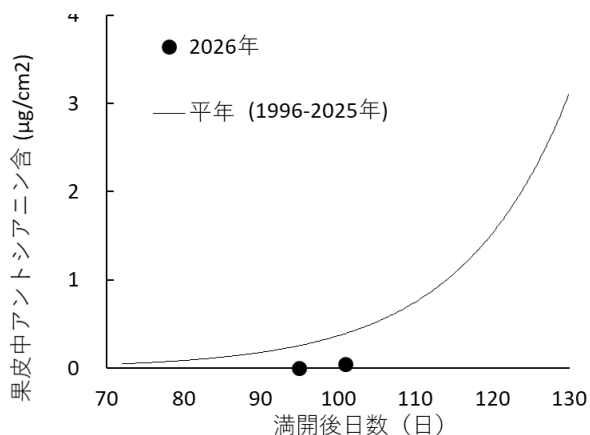


図10 「つがる」の果皮中アントシアニン含量の推移

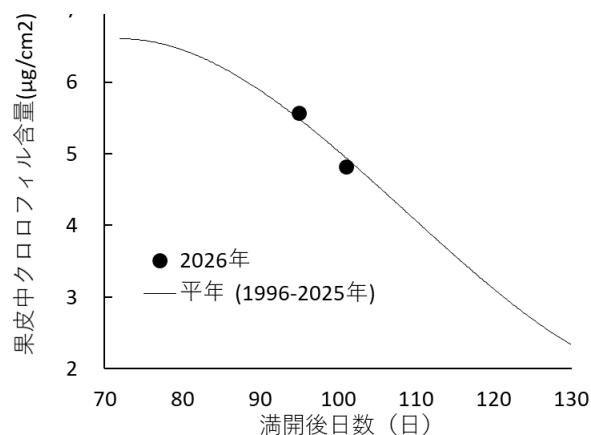


図11 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

(4) ぶどう

ア 着色開始

「巨峰」の着色開始は、7月21日で平年より3日遅くなりました。

イ 成熟状況

7月31日（満開後60日）における「巨峰」の成熟状況は、果皮色が5.7、糖度が12.5° Brix、酒石酸含量が1.18g/100ml、糖酸比が10.6となっています（図12～15）。満開後日数で比較すると、平年より糖度が低く、酒石酸含量は平年並です。

「あづましずく」の7月31日における成熟状況は、短梢栽培（満開後61日）で糖度が17.2° Brix、酒石酸含量が0.61g/100ml、長梢栽培（満開後62日）で糖度が17.3° Brix、酒石酸含量が0.57g/100mlでした（表5）。

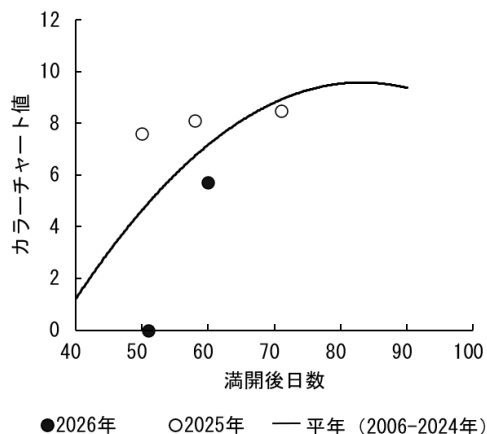


図12 「巨峰」の果皮色の推移

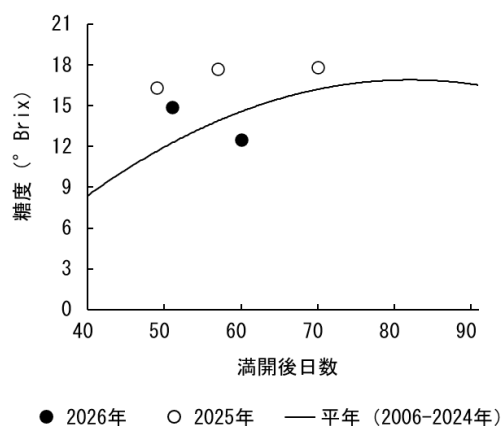


図13 「巨峰」の糖度の推移

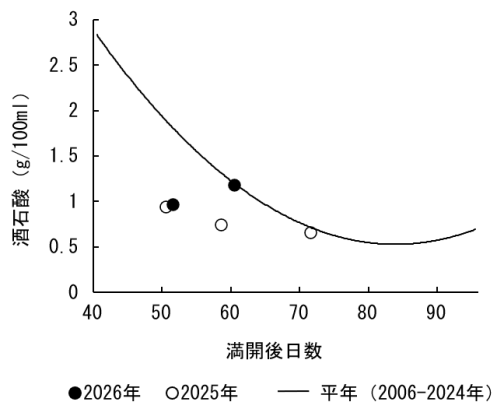


図 14 「巨峰」の酒石酸含量の推移

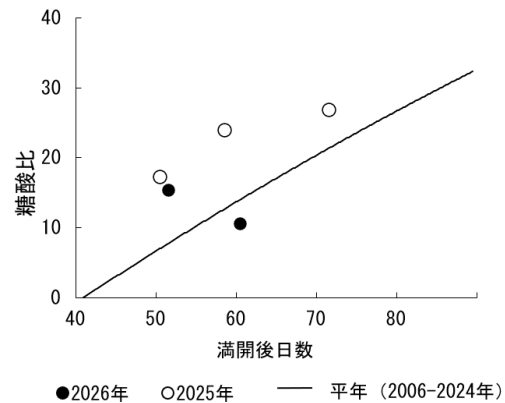


図 15 「巨峰」の糖酸比の推移

表 5 「あづましずく」の成熟状況

栽培方法	年	満開後 日数(日)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	カラー チャート値	糖酸比
短梢栽培	2026	61	12.7	17.2	0.61	9.2	28.2
	2025	58	10.5	18.5	0.52	9.1	35.8
	2024～ 2020平均	60	15.3	17.4	0.60	8.3	29.5
長梢栽培	2026	62	13.2	17.3	0.57	9.6	30.4
	2025	59	9.8	20.0	0.46	9.8	43.9
	2024～ 2020平均	59	12.0	17.8	0.59	8.4	31.0

4 栽培上の留意点

(1) 降ひょう害対策

降ひょう被害が発生した地域では、令和8年6月3日付発行の農業技術情報第5号「ひょう害が発生した農作物の技術対策」(URL: www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/744791.pdf)を参考に対策を実施してください。

(2) もも

ア 晩生品種の収穫前管理

今後、「川中島白桃」、「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、随時、修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。有袋栽培では、適期に除袋するとともに、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(3) なし

ア 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日ごろ(果樹研究所では8月13日ごろ)を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するので、適正着果に努め、「幸水」並の着果量(10a当たり10,000果)としましょう。

(4) りんご

ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け

果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょう。

イ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストッポール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布しましょう。

ウ 修正摘果

中・晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無など、果実をよく見て修正摘果を行いましょう。

(5) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

雨天時やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪くなります。収穫前の2～3日が晴天で、収穫当日も晴れている日に収穫するのが望ましいです。

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。主枝の先端や日当たりが良く、登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いため、優先して収穫しましょう。

また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱うように心がけましょう。さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いには丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

(6) 共通

ア かん水

土壌の乾燥状況を見ながら、晴天が続くようであれば適度にかん水を行いましょう。5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

5 病虫害防除上の留意点

仙台管区气象台によると、東北南部は8月4日ごろに梅雨明けしたとみられます。高温が続く場合は、薬害発生を防止するため、薬剤散布は早朝または夕方に実施しましょう。また、急な雷雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、炭疽病

褐斑病の発生ほ場割合は、病虫害防除所による発生調査において、全域で平年並となっており（令和8年7月29日付け病虫害防除情報）。現在、本病の二次感染期となっており、梅雨期以降も二次感染を繰り返して被害が拡大するため、本病の発生が多い場合は防除間隔が空かないよう降雨前の防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

炭疽病は、発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病が発生しやすい黄色系品種や紅玉などでは、薬剤防除のみでは防除効果が不十分であるため、伝染源となる罹病果実の除去を徹底しましょう。

薬剤防除は、両病害ともに8月中旬頃にQoI剤（ストロビードライフフロアブルを3,000倍またはフリントフロアブル25を3,000倍）を使用します。ただし、QoI剤は薬剤耐性菌が発生しやすい

ため連用を避け、使用回数には十分注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病害虫防除指針参照）のいずれかを選択し、使用濃度、収穫前日数、使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、除袋後に間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、第4世代成虫の誘殺盛期は8月1半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は8月2半旬ごろと推定されます（表6）。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

第3世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、8月2半旬ごろと予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月3半旬ごろと推定されます（表6）。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守しましょう。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上旬から中旬ごろ、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中旬ごろから下旬ごろとなっています。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。

エ ハダニ類

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

オ カメムシ類

飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

表6 果樹研究所における防除時期の推定（令和8年7月31日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月5日	8月9日	8月9日	8月14日
平年並	8月5日	8月9日	8月10日	8月16日
2℃低い	8月6日	8月10日	8月11日	8月19日
起算日：モモハモグリガ 第3世代誘殺盛期 7月16日（予測値）（演算方法は三角法）				
ナシヒメシンクイ 第2世代誘殺盛期 7月16日（予測値）（演算方法は三角法）				

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進

実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>